令和３年度　中尾小学校便り

なかお

学力特集号

令和３年11月30日
北九州市立中尾小学校

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

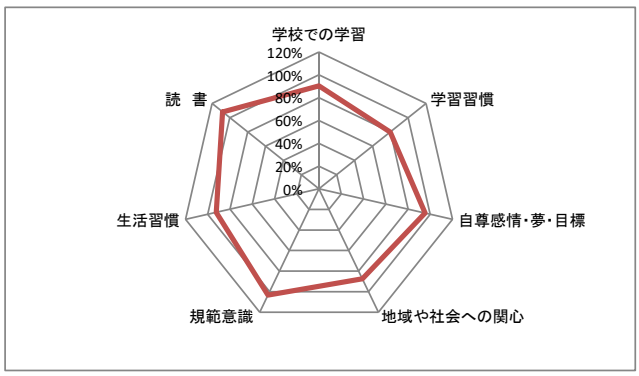
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	思考力・判断力・表現力を問う問題 さまざまな知識を活用し、筋道を立てて考え、自分の言葉で表現する問題は県平均を上回った。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の問題についてはよくできていた 知識・技能を問う問題 国語科の習得すべき知識や重要な概念の理解についての問題は県平均を下回った。 特に「言葉の特徴や使い方に関する事柄」等の問題解決に努力を要する。	下回っている。
算数	図形の測定に関する問題で県平均を上回った。 直角三角形を組み合わせた図形の面積の問題ついてはよくできていた。 数と計算・データの活用に関する問題で県平均を下回った。 「ある量を等しく分けた際の1人分の量を求める」割算問題や「二つのコースの道のりを比べ、その差を求める」減法・減算問題の解決に努力を要する。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学習習慣における家庭学習の時間が平日、休日ともに少なく、家庭学習の習慣が身についていない児童が多い。 ・学校での学習についても課題意識を持ち、主体的に学習に取り組む児童が少なく、自分の考えを発表することができていない。 ・生活習慣については携帯電話やスマホの使い方に制限がかかっていない家庭が半数近くあり、8割近い児童が長時間使用している。 ・人の役に立つ人間になりたいと思っている児童は多い反面、自尊感情が低い児童が多く、将来に対する夢や目標を持てない児童が多い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・学習始めのめあての提示、学習終わりのまとめや振り返りを徹底すること。児童に課題意識を持たせる様々な仕掛けを授業に取り入れていく。
・基礎学力定着のための指導時間を定期的に確保する。
・学習中における様々な機会を活用し、「話し合いや練り合う活動」の指導・充実を図る。
・無回答が少なく、何らかの答えを見出そうとする児童が多く見られた。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習については学校の宿題をする程度の回答が多かった。自主学習する習慣をつけるため、今後も学校及び学級通信や保護者会等で啓発を続けていく。
・スマホや携帯電話を安全に使用するための学習や、外部講師を招聘しての学習会を実施する等の啓発活動を継続する。